

宮城県保健環境センター 課題評価結果報告書

平成30年12月10日

宮城県保健環境センター評価委員会

目 次

1	宮城県保健環境センター評価委員会開催状況	1
2	評価委員	1
3	評価対象課題	2
4	評価方法	3
5	評価結果（事前評価）	4
6	評価結果（中間評価）	6
7	評価結果（事後評価）	7

1 宮城県保健環境センター評価委員会（課題評価）開催状況

- (1) 平成30年度第1回評価委員会
平成30年10月24日（水） 午後1時30分から午後4時30分まで
宮城県保健環境センター大会議室
- (2) 平成30年度第3回評価委員会
平成30年12月4日（火） 午後1時30分から午後3時10分まで
宮城県保健環境センター大会議室

2 評価委員

	氏 名	所 属 ・ 職 名
1	加藤 徹	NPO 法人あぐりねっと21 理事長
2	木村 ふみ子	尚絅学院大学総合人間科学部健康栄養学科准教授
3	白川 愛子	宮城大学食産業学群フードマネジメント学類准教授
○ 4	村田 功	東北大学大学院環境科学研究科准教授
5	森本 素子	宮城大学食産業学群食資源開発学類教授
6	谷津 壽郎	仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科非常勤講師
◎ 7	山田 一裕	東北工業大学工学部環境エネルギー学科教授

50音順 ◎印は委員長 ○印は副委員長

3 評価対象課題

(事前評価)

整理番号	研究区分	担当部名	研究課題名	研究期間(年度)
1	経常研究	微生物部	宮城県内に生息するマダニの病原体保有状況調査	H31～32
2	経常研究	生活化学部	県内に流通する農作物中のネオニコチノイド農薬の実態調査	H31～32

(中間評価)

整理番号	研究区分	担当部名	研究課題名	研究期間(年度)
3	経常研究	大気環境部	宮城県におけるPM _{2.5} 中のレボグルコサン及び有機酸の解析	H28～33

(事後評価)

整理番号	研究区分	担当部名	研究課題名	研究期間(年度)
4	経常研究	微生物部	野生動物及び豚のE型肝炎ウイルス浸淫状況とリスク評価	H28～29
5	経常研究	生活化学部	機器分析法による下痢性貝毒の分析法の確立と適応性の検証	H28～29
6	経常研究	水環境部	底層溶存酸素量と生物種の関連性の調査－湖沼への類型指定に向けて－	H28～29

4 評価方法

平成30年度第1回評価委員会で、保健環境センターが課題評価調書等に基づき説明し、質疑応答を行った上で各評価委員が評価を行いました。

第3回評価委員会では、各評価委員の評価結果を元にとりまとめた課題評価結果報告書について審議しました。

なお、評価項目、項目別評価基準及び総合評価基準は以下のとおりです。

○評価項目

事前評価	中間評価	事後評価
<ul style="list-style-type: none"> ・課題の重要性・必要性 ・計画の妥当性 ・成果及びその波及効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の重要性・必要性 ・計画の妥当性及び進捗状況 ・成果及びその波及効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の妥当性 ・目標の達成度及び成果の波及効果

○項目別評価基準

各委員の項目別評価結果を以下により集計・平均し、評価結果としました。

各委員 評価結果		委員評価結果 平均	報告書記載 項目別評価結果	評価基準
5	→ 集計・ 平均	4.5 以上	5	高い
4		3.5 以上 4.5 未満	4	やや高い
3		2.5 以上 3.5 未満	3	普通
2		1.5 以上 2.5 未満	2	やや低い
1		1.5 未満	1	低い

○総合評価基準

項目別評価と同様に各委員の総合評価結果を以下により集計・平均し、評価結果としました。

各委員 評価結果	換算値		委員評価結果 平均	報告書記載 総合評価結果
AA	5	→ 集計・ 平均	4.5 以上	AA
A	4		3.5 以上 4.5 未満	A
B	3		2.5 以上 3.5 未満	B
C	2		1.5 以上 2.5 未満	C
D	1		1.5 未満	D

総合 評価結果	評価基準		
	(事前評価)	(中間評価)	(事後評価)
AA	計画は 極めて優れている	計画及び進捗状況は 極めて優れている	成果は 極めて優れている
A	計画は 優れている	計画及び進捗状況は 優れている	成果は 優れている
B	計画は 妥当である	計画及び進捗状況は 妥当である	成果は 妥当である
C	計画の 一部に課題がある	計画及び進捗状況の 一部に課題がある	成果の一部が 不十分である
D	計画の見直しが必要である		成果は不十分である

5 評価結果（事前評価）

整理番号	1	研究区分	経常研究	研究期間	平成31～32年度				
研究課題名	宮城県内に生息するマダニの病原体保有状況調査								
評価結果	I 項目別評価								
		評価（点）	5	4	3	2	1	平均（点）	結果
	評価項目								
	課題の重要性・必要性（人）	4	3				4.6	5	
	計画の妥当性（人）	1	4	2			3.9	4	
	成果及びその波及効果（人）	3	4				4.4	4	
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い								
	II 総合評価								
		評価	AA	A	B	C	D	平均（点）	結果
	総合評価（人）	4	2	1			4.4	A	
【総合評価 評価基準】 AA：計画は極めて優れている A：計画は優れている B：計画は妥当である C：計画の一部に課題がある D：計画の見直しが必要である									
III 意見等									
<p>①本研究により、マダニによる感染予防啓発等が可能となり、感染リスク低減が図られることが期待できると思われる。</p> <p>②ダニ媒介性感染症は、発症した場合には致死率が高く、今後、感染地域が拡大する可能性もあることから、注意喚起と予防対策のために県内のダニ媒介病原体の実態を把握することは、喫緊の課題と言えると思われる。</p> <p>③感染症対策は県がリーダーシップをとって進めるべき重要な課題であり、広域的に実態調査を実施することとしている本研究は必要性の高い調査と思われる。</p> <p>④得られた成果は、感染予防対策を講じるうえで重要であり、医療機関や県民に情報提供して注意喚起を促す必要があると思われる。</p> <p>⑤ダニのハザードマップ作成を目指すのであれば、仙台市との協力も行っていただきたい。</p> <p>⑥公園等人の多く集まる場所を中心に採材する計画だが、家畜との関連もあることから、放牧場などできるだけ広範囲に調査していただきたい。</p>									

整理番号	2	研究区分	経常研究	研究期間	平成31～32年度				
研究課題名	県内に流通する農作物中のネオニコチノイド農薬の実態調査								
評価結果	I 項目別評価								
		評価(点)	5	4	3	2	1	平均(点)	結果
	課題の重要性・必要性(人)		2	5				4.3	4
	計画の妥当性(人)			7				4.0	4
	成果及びその波及効果(人)		3	4				4.4	4
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い								
	II 総合評価								
		評価	AA	A	B	C	D	平均(点)	結果
	総合評価(人)			7				4.0	A
	【総合評価 評価基準】 AA：計画は極めて優れている A：計画は優れている B：計画は妥当である C：計画の一部に課題がある D：計画の見直しが必要である								
III 意見等									
<p>①本研究により、県における化学物質分析技術のさらなるレベルアップが図られることが期待でき、検査研究機関として必要な技術の向上に有効な課題であると思われる。</p> <p>②本研究は、県内に流通する農作物の安全性に関する情報提供のために有効であり、人体への曝露についての実態把握は大変重要であると思われる。</p> <p>③輸入農作物の調査に当たっては、規制の進んでいるEU諸国とそれ以外の国とに分けて分析及び整理して欲しい。さらに、農作物を穀類、果実類、野菜類に分けて分析及び整理して欲しい。そのための研究期間延長も検討に値すると思われる。</p> <p>④日本の基準の他、欧州などの基準との比較といった視点でも調べてみると良いと思われる。</p> <p>⑤結果の公表及び情報提供の際には、県民に正しい理解が得られるよう、十分な説明を慎重に行う必要があると思われる。</p> <p>⑥将来的には、地下水や河川水、魚類等の環境中への影響にも展開され、環境への影響評価とそのリスクの情報発信ができるよう、プロジェクト研究等への発展を期待したい。</p>									

6 評価結果（中間評価）

整理番号	3	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～33年度			
研究課題名	宮城県におけるPM _{2.5} 中のレボグルコサン及び有機酸の解析							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	課題の重要性・必要性 (人)	1	5	1			4.0	4
	計画の妥当性及び進捗状況 (人)		5	2			3.7	4
	成果及びその波及効果 (人)	2	5				4.3	4
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
	II 総合評価							
	評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)		5	2			3.7	A
	【総合評価 評価基準】 AA：計画及び進捗状況は極めて優れている A：計画及び進捗状況は優れている B：計画及び進捗状況は妥当である C：計画及び進捗状況の一部に課題がある D：計画の見直しが必要である							
III 意見等								
<p>①国際的にも問題のあるPM_{2.5}について、大気汚染をモニタリングして対策を実施する立場にある県として、発生源の特定につながる成分分析の体制を整えて、地域における実態を把握することは、今後の対策を考えるためにも非常に有効になると思われる。</p> <p>②PM_{2.5}の詳細な成分組成解析であり、測定法の最適化と継続した観測によりPM_{2.5}汚染が問題になった場合の迅速な対策が可能になると思われる。</p> <p>③本研究は、分析手法等について適宜計画を見直しながらより良い成果が得られるよう工夫し、継続的な取組みがなされており、評価できると思われる。</p> <p>④これまでに一定の成果が出ており、得られた情報の県民への還元を検討いただきたい。</p> <p>⑤バイオマス混焼火力発電所の稼働前後の調査で、レボグルコサン量に変動がほとんどなかったことから環境への影響が少ないことを示す根拠となる可能性があるが、レボグルコサンの環境動態を的確に把握できているのか、試料採取の方法を含めて継続して解析を行い、検討いただきたい。</p> <p>⑥発生源の推定に関しては、流跡線解析など気象データを活用した解析も重要であるので、活用して考察をしていただきたい。</p>								

7 評価結果（事後評価）

整理番号	4	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度			
研究課題名	野生動物及び豚のE型肝炎ウイルス浸淫状況とリスク評価							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	計画の妥当性 (人)	1	6				4.1	4
	目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)	6	1				4.9	5
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
	II 総合評価							
	\ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)	1	6				4.1	A
	【総合評価 評価基準】 AA：成果は極めて優れている A：成果は優れている B：成果は妥当である C：成果の一部が不十分である D：成果は不十分である							
	III 意見等							
<p>①県内の野生イノシシからE型肝炎ウイルス遺伝子を初めて検出するなど県内の野生イノシシ及びシカのE型肝炎ウイルス浸淫状況を明らかにした価値は高いと思われる。</p> <p>②県内のE型肝炎ウイルス浸淫状況を把握できたことは、感染予防に関する啓発や注意喚起の促進において貢献できたと思われる。</p> <p>③本研究には、生カキに用いたウイルス抽出方法が応用されており、保健環境センター独自の着想、分析技術の確立に至ったことは、評価が高いと思われる。</p> <p>④予算および研究員を充実して、県内全域に拡大したサーベイランスを展開し、今後も定期的に野生動物内での動向を調査することにより、リスクの増減や感受性動物種の変化などの追跡をしていただきたい。</p> <p>⑤感染予防のために正しい知識が周知されるよう、広報活動に努めていただきたい。</p> <p>⑥仙台市についても、協力を図るなどして情報を収集できるようにしていただきたい。</p>								

整理番号	5	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度			
研究課題名	機器分析法による下痢性貝毒の分析法の確立と適応性の検証							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	計画の妥当性 (人)	2	5				4.3	4
	目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)	7					5.0	5
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
	II 総合評価							
	総合評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)	5	2				4.7	AA
	【総合評価 評価基準】 AA：成果は極めて優れている A：成果は優れている B：成果は妥当である C：成果の一部が不十分である D：成果は不十分である							
	III 意見等							
①県気仙沼水産試験場との共同研究により、当初計画で予定されていなかった毒化したマボヤにおけるオカダ酸群の器官局在性を初めて明らかにしており、より発展性のある研究となったと思われる。								
②水産振興において役立つ成果であり、県の水産業への貢献も評価できると考えられる。								
③性能評価基準を満たした上で、効率化と経費削減を達成しており、当初の目的は達成されたと考えられる。								
④麻痺性貝毒の機器分析法への応用にも期待したい。								

整理番号	6	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度				
研究課題名	底層溶存酸素量と生物種の関連性の調査—湖沼への類型指定に向けて—								
評価結果	I 項目別評価								
		評価(点)	5	4	3	2	1	平均(点)	結果
	評価項目								
	計画の妥当性(人)			7				4.0	4
	目標の達成度及び 成果の波及効果(人)			4	3			3.6	4
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い								
	II 総合評価								
		評価	AA	A	B	C	D	平均(点)	結果
	総合評価(人)			3	4			3.4	B
	【総合評価 評価基準】 AA：成果は極めて優れている A：成果は優れている B：成果は妥当である C：成果の一部が不十分である D：成果は不十分である								
III 意見等									
①湖沼の生息魚種と水質について同時に着手するという先進的な取組みは評価できると思われる。									
②県内一部の湖沼ではあるが、水質・DOの水平及び垂直分布の把握と、生息魚種との関係を把握できたことは、生存環境及び水生生物種の保全において重要であると考える。									
③今後の類型指定に活用するためには、流域も含む湖沼の地形条件、植生状況、渡り鳥の飛来及び生息状況、流入水の状況等についても整理しておいた方が良いと思われる。									
④生息魚種の貧酸素耐性値、生息地域などの調査結果が十分でないため、環境省からのマニュアルを参考に検討を行い、類型あてはめを進めていただきたい。									
⑤水環境における生物学的な調査は非常に重要と考えられるため、継続して調査を行っていただきたい。									
⑥新たな指標である底層DOの役割を、どのように県民に啓発及び周知していくのか、その方法の工夫についても期待したい。									